

## 如月（きさらぎ）

「如月」とは、日本古来使われている旧暦2月の異名です。私にとっては同名の和菓子屋が実家の近くにあったため、小さい頃から馴染みのある名称です。

旧暦の月の異名には、数字では表せない日本独特の季節感や生活観が宿っているように思います。いくつか見てみると、1月は正月に家族や親戚が睦み合う月だから睦月です。3月は、いよいよ草木が生い茂るという意味で弥生、旧暦8月は既に秋になり葉が落ちる月で葉月、9月は秋の夜長で長月となります。師走はもちろん、先生も忙しく走り回るからこの名があると言われています。

しかし、「如月」の由来となぜこの漢字が使われるかは、すぐには見当が付きません。有力な説は、この時期はまだ寒さが残っていて、衣を更に重ね着することから「衣更着（きぬさらぎ）」から転じたとするものです。また、漢字については、古くから中国で2月を「如」と表していた事からきているようです。「如」は本来「従う・赴く」という意味があり、そこから、草花や木などの自然や動物が春に向かって動き出す月、という意味で「如」をあてたとされています。「きさらぎ」という呼び名は「日本書紀」にも表記があるようで、2月を表す中国の漢字「如（月）」と日本の古来の呼び名が組み合わされて「如月（きさらぎ）」となったという事でしょうか。面白いですね。

ところで、今年の2月は特別です。4年に一度の閏年で1日多く29日まであります。そして、今年から23日が天皇誕生日となりました。11日の建国記念の日と合わせて国民の祝日が2日存在するめでたい月となります。3日は節分、4日は立春です。コンパクトながら賑やかな春の始まりの月となりそうです。

ただ、「春は名だけの風の寒さよ」で、如月の名の由来の如く重ね着が必要な日々が続くと思われます。お身体には十分お気をつけください。

《参考》日本文化研究ブログ (<https://jpnpculture.net/>)、ギフトマナー辞典 (<https://gift-manners.shaddy.jp/>)



玉藻公園 本丸の梅 #upTAK